

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)堺市北区長曽根町計画 新	階数	地上15F
建設地	大阪府堺市北区長曽根町3069番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域 第一種住居地域	平均居住人員	532 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2015年8月3日
敷地面積	4,227 m ²	作成者	長谷工コーポレーション 井上
建築面積	1,077 m ²	確認日	2015年8月5日
延床面積	10,757 m ²	確認者	長谷工コーポレーション 平位



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 北側沿道に広場を設け緑豊かな景観作りに配慮した。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 住戸内装にほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 災害時の飲料水確保に備えている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 沿道の緑化によってまちなみに配慮を行った。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 BEIを非住宅1.0、住宅0.96とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を極力使わない計画とした。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自転車置場を200%確保した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	(仮称)堺市北区長曾根町計画 新築工事	BEE	BEEランク
	建設地	堺市北区長曾根町3069番1,2,3	1.1	B+
	主用途/延床面積	集合住宅 / 10,756.85 m ²		

2. 重点項目への取組み		
重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	4	● ● ● ● ●
省エネ対策	3	● ● ● ● ●
みどり・ヒートアイランド対策	2	● ● ● ● ●
安全快適な暮らし	3	● ● ● ● ●

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	-	風力	-	地熱	-		
	太陽熱利用	-	水力	-	バイオマス	-		

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア				
CO ₂ 削減		評価項目	スコア	評価点
地球温暖化への配慮		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値	4.1	4
省エネ対策		評価項目	スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.2」のスコアによる評価値	建物全体	3.0	3
		住居・宿泊部分	3.0	
建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値	3.0		
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値	3.0		
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値	4.3		
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値	対象外		
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値	3.0		
みどり・ヒートアイランド対策		評価項目	スコア	評価点
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値	1.0	2
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値	2.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値	3.0	
安全快適な暮らし		評価項目	スコア	評価点
バリアフリー計画		CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値	4.0	3
耐震・免震		CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値	3.0	
地域性への配慮、快適性の向上		CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値	2.0	
交通負荷抑制		CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値	3.0	

4. その他	
技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	